

## 弘前大学男女共同参画推進室 Newsletter



弘前大学は2019年5月に「弘前市女性活躍推進企業」に認定されました。

### 男女共同参画トップセミナーを開催しました

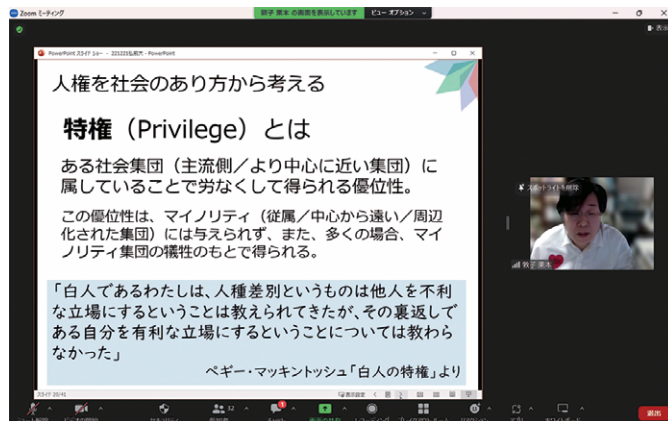
男女共同参画推進室では昨年12月21日、令和4年度弘前大学男女共同参画トップセミナーをオンラインで開催しました。本セミナーは平成27年度から、本学の役職員を主な対象として年度に1回開催されてきたものです。今回のテーマは「無意識の差別を考える 特権概念を手掛かりに」で、Facilitator's LABOの栗本敦子先生を講師にお迎えしました。栗本先生からは、そもそもダイバーシティとは何かにはじまり、日常のことに現れる私たちの無意識の例、無意識の偏見につながるヒドゥン・カリキュラム（隠れたカリキュラム）の例、特権とは何か、などについてお話いただきました。また、日常生活のさまざまな場面で、悪意なく、無意識のうちに起きがちな事柄について、参加者が小グループに分かれて一緒に検討するワーク「これってOK？アウト？」も行われました。まとめとして、ジェンダー・ステレオタイプ、差別について学び続け理解を広げることや、個

人の心のありようや行動ではなく社会の構造としてとらえることなどの重要性が述べられました。

本学役職員や「あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」機関の方を含む30人の参加があり、参加者アンケート（回答数23）では18人が「大変有意義だった」、5人が「有意義だった」との評価でした。「無意識の差別や、好意として差別をおこなってしまうこと、さらに差別が個人の意識ではなく社会の構造のなかに生まれることをよく理解できました。仕組みや制度を変えることで、働きやすい職場をつくるよう行動していきたい」「グループワークがあることで自分の偏見に改めて気がつくことができました」などの感想が寄せられました。

#### 「特権」の例

- ・自分の子どもの世話をしているだけで、「すばらしい親」の事例としてほめてもらえる。
- ・「責任者」と話がしたいと言えば、同性の人が出てくる。
- ・結婚して名前を変えることはなく、変えないのはなぜかを聞かれることもない。
- ・性別のために仕事に就けたと思われないことはない。
- ・自分が他人へ持つ恋愛感情は、普通でまともだと信じて育ってきている。
- ・恋愛関係や結婚について話をするとき、自分の恋愛観について「性的指向を強調しすぎ」と責められることはない。
- ・家族や友人に自分の性的指向が知られたら経済的・身体的・精神的に追いやられるかもしれないという恐怖感がない。



「特権」概念について説明する栗本敦子先生

### 研究効率向上支援ツールをご活用ください

前号でお伝えしましたように、弘前大学は本年度、文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特性対応型）に採択されました（事業期間：令和4～9年度）。この事業の主な取組のひとつに、スマートラボ化による研究効率の向上支援があります。このたびこの取組の一環として、①遠隔実験モニタリングシステムの導入、②研究打合せなど会議での発言をAIで自動テキスト化するツールの導入、③研究室（個室）を持たない教員などのための遠隔会議ブースの設置、④ライブイベント中の教員などのためのオンライン会議用貸し出し防音パーティションの導入を行いました。

遠隔実験モニタリングシステム、発言のAI自動テキスト化ツールは、試行運用中です。遠隔会議ブースは、文京町地区はコラボ弘大1階、本町地区は

医学部コミュニケーションセンター2Fに1台ずつ設置され、令和5年度から本格運用予定です（利用には、予約が必要ですが）。防音パーティション（組み立て式・ライト付）は貸し出しを進めております。貸出時の折りたたまれた状態のサイズは42cm×60cm×10cmで、重さは約1.8kgです。貸し出しを希望される方は、男女共同参画推進室（連絡先は本ニュースレター裏面下部にあります）へお気軽にご連絡ください。



遠隔会議用ブース



貸出用防音パーティション



貸出用防音パーティション搬送パッケージの様子

## フェローシップ制度新設、「弘前大学理農女性フェロー」を決定しました

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特性対応型）事業のもうひとつの主な取組に、女性研究者を増やすための裾野拡大があります。昨年11月、この取組の一環として、理工学研究科と岩手大学大学院連合農学研究科（弘前大学配属）の博士後期課程の女性大学院生を対象としたフェローシップ制度を創設しました。この2つの研究科に対象が絞られているのは、本学における教員に占める女性比率が、分野特性などから他研究科に比べて特に理工学研究科と農学生命科学部において低く、その状況の改

善につなげていくためです。

本フェローシップによる支援を受ける大学院生「弘前大学理農女性フェロー」（毎年2名を新規採択）は、標準修了年限の範囲で、1か月あたり研究奨励費10万円、年あたり研究費20万円を支給されます。昨年12月に令和4年度分の公募と選考が行われ、2名への支援を決定しました。令和5年度分については、2～3月に公募が行われ、新たに2名への支援が決定しました。

## 子育て・介護中の研究者への研究支援員配置を決定しました

男女共同参画推進室では、子育て・介護により研究活動の維持が困難な研究者（分野・性別不問）を対象として、本学の学生を「研究支援員」として雇用・配置し、研究活動を支援しています。

令和4年度は、8部局12人（うち男性1人）を支援しました。令和5年度は、13人から申請があり、研究困難度などについて厳正な審査が行われ、7部局11人への支援が決定しています。令和5年度の定期募集分（昨年

12～2月）で採択された研究者への支援は、5月～来年3月までです。

なお、年度途中で子育て・介護に関する状況に変化があった場合や、対象となる教員で年度途中に着任した場合は、定期募集期間外でも申請が受けつけられます（支援は予算の範囲内で行われます）。男女共同参画推進室（連絡先は本ニュースレター裏面下部にあります）へお気軽にご相談ください。

## 理系女子進路選択支援の取組を行いました

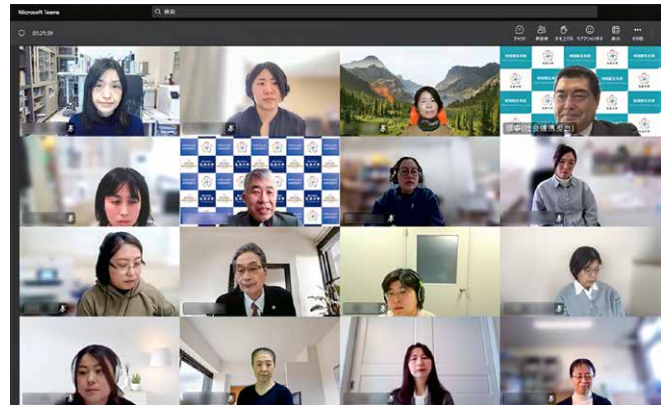
男女共同参画推進室の取組のひとつに、女性研究者、とりわけ研究者に占める女性比率の低い理系の裾野拡大があります。男女共同参画推進室では、この取組として今年度も、青森県男女共同参画プラザによる女子児童を対象とした実験教室「実験ガールズ」後援（昨年7月）、オープンキャンパスでの理系女子進路相談会（昨年8月）、弘前市との共催による「弘前大学研究体感プログラム」（昨年9月）、総合文化祭（昨年10月）と青森県男女共同参画センター「アビオあおもり」の「アビオあおもり秋まつり」（昨年11月）での本学女性研究者の研究ポスター展示、理工学研究科の鳥飼宏之教授（男女共同参画推進室兼務教員）による県内女子高校生を対象とした実験教室「女子高生工学系キャリアサポート」（2月）協賛を行いました。



「弘前大学研究体感プログラム」の様子

## 女性研究者懇談会を開催しました

男女共同参画推進室では3月17日、令和4年度第5回さんかくダイアログ「女性研究者と学長、担当理事、男女共同参画推進室長との懇談会」をオンラインで開催しました。女性研究者17人の参加があり、各参加者が置かれた状況、教員公募時に女性からの応募を増やす方策、定着支援策、改善を希望する取組や新たに希望する取組、現在実施されている効果的な取組などについて多くの発言があり、福田眞作学長、石川隆洋理事（社会連携担当）、藤崎浩幸男女共同参画推進室長が耳を傾けました。参加者アンケート（回答数18）では3人が「大変有意義だった」、8人が「有意義だった」、4人が「まあまあ有意義だった」との評価で、「他の女性研究者の状況や感じていることを伺う貴重な機会になりました。共感できる内容や新しい気づきもあり、有意義でした」「各参加者が抱えている思いに対して、学長や理事がどう受け止められたか、参加者に伝わるよう一問一答の質疑応答スタイルだとより有意義な懇談会になると思いました」などの感想・意見が寄せられました。



懇談会の様子

## 令和5年度も各種支援策をご活用ください

令和5年度も、病児病後児・学会や出張時・休日勤務時の託児利用料補助、本学女性研究者を研究代表者とする共同研究支援、「さんかくダイアログ」開催、男女共同参画トップセミナーなど教職員を対象とするさまざまな支援策・取組を実施し、弘前大学における男女共同参画を推進してまいります。各種支援策・取組については、部局総務グループを通じたメー

ルのほか、学内に掲示するポスター、男女共同参画推進室ウェブサイト、Twitterなどでご案内いたします。ぜひご活用ください。また、男女共同参画、ダイバーシティ推進に関してお困りのことやご意見がございましたら、男女共同参画推進室（連絡先は本ニュースレター裏面下部にあります）へどうぞお知らせください。